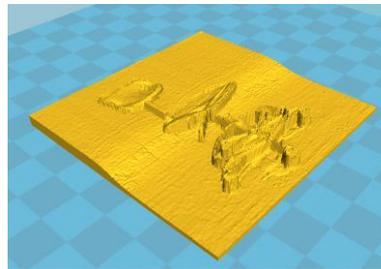


Cura には、画像から G コードを作る機能があります。これは画像の明暗を凹凸にした立体の G コードとなります。後ろから光を当てることで絵が浮かび上がるリフエイン造形を行うことができます。

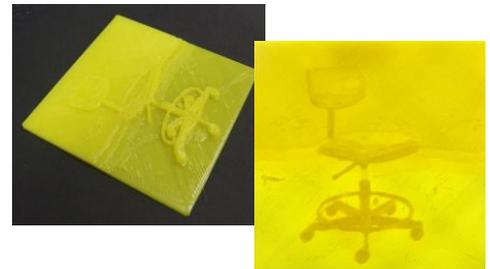
もとの画像(JPEG,BMP,PNG)



立体データ化(G コード)

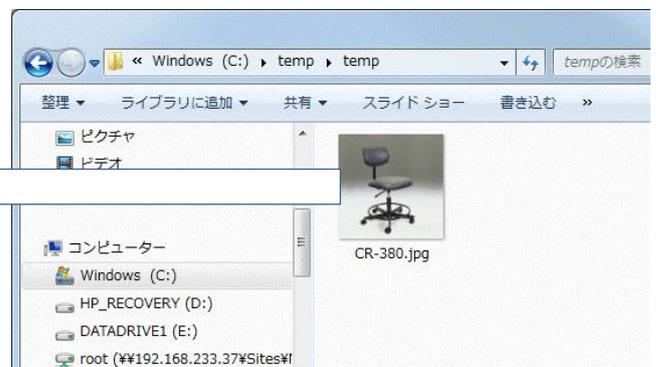
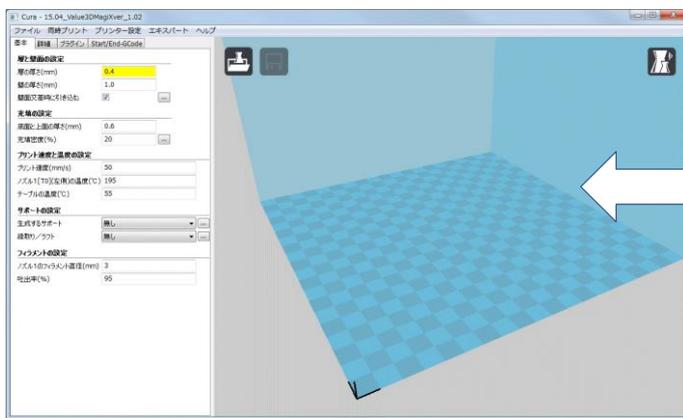


造形

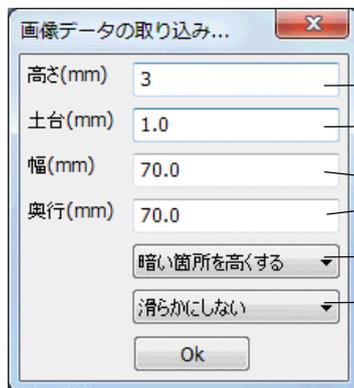


<手順>

① Cura であらかじめ温度フィラメント径を設定しておきます。その上で、画面に、画像ファイルをドラッグ&ドロップします。

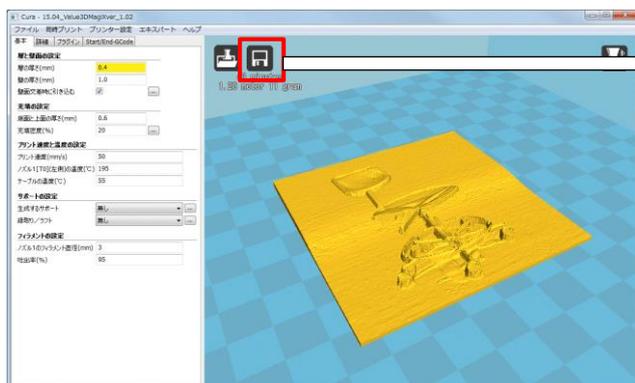


② 「画像データ取り込み」メニューが表示されますので、必要な設定をして、[OK]を選びます。

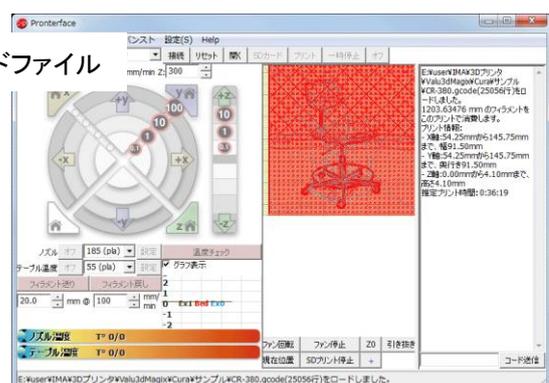


- 高さ(mm) 3 ——— 凹凸部の高さ(3mm ぐらい薄くすれば透かし彫りのようになります)
- 土台(mm) 1.0 ——— 土台の高さ
- 幅(mm) 70.0 ——— 面の幅と奥行き
- 奥行(mm) 70.0 ——— 面の幅と奥行き
- 暗い箇所を高くする ——— 暗い箇所、明るい箇所のどちらを高くするか
- 滑らかにしない ——— 凹凸を滑らかにするかどうか

③ 設定に従って Cura 内に読み込まれますので、あとは通常通り G コードファイルにします。



→ G コードファイル



以上